



JAC北九だより

No.89 (2019年 第3号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部
 支部長 日向 祥剛
 事務局：糟屋郡篠栗町尾仲50-17
 榊 俊一方
 TEL/FAX自宅 092-947-3208
 携帯 090-8416-4194
 編集人：事務局 花田 拓二
 印刷：山口県山口市水の上町2-25
 内藤 製本所

皆さまのご協力を得て
 心新たに頑張っ
 て参ります

平成から令和の時代へ
 バトンタッチ



就任のごあいさつ

北九州支部長 日向 祥剛

令和の時代、最初の支部長を務めさせていただきます日向です。

2000年9月2日に誕生した北九州支部。本部評議員、福岡支部長、本部山研委員を務め、特別功労表彰に輝いた初代吉村健児支部長。九州大学薬学部講師でやはり本部評議員を務めた2代目秦野一彦支部長。北九州市職員で長野県九州観光事務所長を長く務めた3代目大庭常生支部長。福岡県警察官で版画家の4代目伊藤久次郎支部長。三菱商事OBで日本の山や山岳会の歴史に詳しい5代目関口興洋支部長。皆ん山の知識も見識も素晴らしい方々です。その後を受けさて6代目支部長に就任しました。ご支援をお願いします。

登山は喘息を治すために、小学生の時、近所の人に八ヶ岳に連れて行ってもらったのが初めです。その後、大学までは生物部で蝶や植物の採集のために山や離島を回っていました。今年6月に古希を迎え心身ともに健康です。

北九州支部も会員の高齢化と減少が大きな問題となっています。来年には創立20周年を迎えます。記念行事の準備、榎有恒碑前祭の定着等々、多くの課題があります。皆さまの、ご指導、ご鞭撻を基に、心新たに頑張っ
 て参ります。どうぞご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。

退任のごあいさつ

前北九州支部長 関口 興洋

平成31年4月21日、毎日会館で開催された平成最後の第20回通常総会をもって北九州支部長を退任いたしました。平成28年5月14日、伊藤久次郎元支部長より急きょ、支部長を引き受けることになり、支部運営に関わって参りました。

この間、安全登山推進のため登山計画書の作成・届出の徹底、指導者の育成、登山技術の向上、新入会員の勧誘、「山の日」制定に伴う啓蒙活動の一環として親子登山の実施、英彦山を中心とした環境整備活動、支部報の編集・発行、「榎有恒碑前祭」の実施などで、園川顧問、伊藤顧問、各役員はじめ、会員、支部友、会友の皆様方のご協力とご支援を賜りましたことに深謝申し上げます。特に竹本事務局長には本部との連絡・調整業務の窓口として一方ならぬサポートを頂きましたことありがたく御礼申し上げます。

今後は日向支部長の下で、当支部の活動がますます発展することを祈念して退任のご挨拶といたします。

ありがとうございました。

ホームページの開設 (お知らせ)

15646 塚本 久嘉

ホームページを開設します。

<http://jac-kitakyushu.jp/>

一部工事中のページもありますが、年間計画や月例山行などはホームページから申し込みができます。今後、掲載したいコンテンツやアドバイスなどありましたらご連絡下さい。

ホームページ開設に伴い登山計画書の提出先も変更になります。

anzentozan@jac-kitakyushu.jp

知人や加入希望の方がおられましたら、知らせてください。

また、行事や山行など、写真がありましたらお寄せ下さい。ホームページに掲載いたします。

平成31年4月21日(日)

第20回通常総会 日本山岳会北九州支部



第20回通常総会 毎日西部会館で

(写真：伊藤久次郎)

4月21日(日)午後1時から5時まで北九州市小倉北区紺屋町の毎日会館西部支社5階会議室で第20回通常総会が開催された。

今回は午後1時15分から2時45分までの90分間、記念講演として、日本山岳会会員(北九州支部)の[横山秀司氏](前九州産業大学大学院教授)より「北アルプスの景観と森林限界」というテーマで講演していただいた。大変勉強になる講演で皆さん真剣に講義を聞き講演を楽しんでいた。

休憩後3時より通常総会が始まり磯野副支部長の開会の辞にはじまり、榊役員が総会成立を報告した。

出席者33人委任状提出者18人、支部友出席者2人、準会員出席者1人、出席者と委任状を合わせると51人となり、67人の過半数を超えているので総会が成立した。

続いて関口支部長のあいさつでは高齢化にともない退会者が増えているので新入会員をふやしたい等の話と約3年の支部長在籍の間の色々な問題点を本部に提起した。

次に審議に入り、議長には関口支部長が選出され各議案の審議に入る。

- 1 平成30年度事業報告、収支決算、監査報告が審議され、承認された。
- 2 役員改選も承認された。
支部長、副支部長、事務局長の交代と各役員の役職は次回役員会での決定が承認された。
- 3 平成31年度事業計画、収支予算が審議され承認された。

4 意見

- ① 支部長が事業にできるだけ参加すること。
- ② 辞めていく会員が多くなってきていることの対策を考える必要があるのではないか。
- ③ 「榎有恒碑前祭」の時の収支内容を明確にしてほしい。
- ④ ルーム賃借料を一会員の寄付に頼っていることが今後も続けてよいのかどうか。
- ⑤ 英彦山トイレ清掃登山が数人に固定されているのでほかの人にも参加して欲しい。
- ⑥ ポレポレの山行は保険の加入を前提として実施している。
- ⑦ 20周年記念の行事を決めて対応を急がなければならない。
- ⑧ 支部ホームページ開設は、サーバーが決まり進行中である。

5 総会終了後、指導員認定書が授与された。

森義雄、松本重裕の2人がB級指導員に認定された。終了後全員の記念撮影を行った。

懇親会は、場所を変えて、小倉サロンを開催しているホールで午後5時30分から、30人が出席、榊の司会、園川顧問の乾杯の音頭で宴が始まった。

宴が楽しく始まり途中からカラオケも加わり迷歌手の、のど自慢大会となった。宴もたけなわとなり「坊がつる讃歌」を全員輪となり合唱し、伊藤顧問の万歳三唱で午後7時30分幕引きとなった。(文：榊 俊一)

通常総会出席者(敬称略)

永年会員(1人)園川陽造

通常会員(32人) 吉永威幸 原広美 板倉健一 伊藤久次郎 井上禮子 馬場基介 磯野文雄 関口興洋 山田武史 丹下洽 大木康子 榊俊一 丹下香代子 大内喜代子 竹本正幸 竹本加代子 赤瀬榮吉 縄田正芳 高富拓生 歳弘逸郎 縄手修 奥田スマ子 三浦利夫 清家幸三 縄手修 小林英世 伊藤友紀 三宅明子 花田拓二 横山秀司 松本重裕 塚本久嘉 町元里香(うち4人は講演会と通常総会のみ)

準会員(1人)太郎良嘉親 支部友(2人)松田幸恵(講演会のみ) 城戸剛(講演会と通常総会)

第35回全国支部懇談会の報告

13643

関 □ 興 洋

第35回全国支部懇談会に出席しましたので以下の通りご報告します。

- ①主管：日本山岳会 栃木支部 平成19年(2007年)5月、26番目の支部として発足。初代支部長は日下田實永年会員(1956年のマナスル・サミッター)
- ②日程：2019年5月25日(土)～26日(日)
- ③開会式・記念講演会会場：日光自然博物館(中禅寺湖畔)
- ④宿泊・懇親会会場：日光アストリアホテル(光徳温泉)

<5月25日> 開会式・記念講演

5月の燦々と輝く陽光と新緑にあふれる中禅寺湖畔の日光自然博物館で行われた開会式で栃木支部の渡邊支部長から歓迎のご挨拶を頂いた。

日本山岳会創始メンバーの一人であり第六代会長の武田久吉は、イギリスの外交官である父アーネスト・サトウとこの地を再三訪れ、日光の山々や自然に親しみ植物学の研究に勤しみました。日本山岳会の歴史にとって大変意義深いこの奥日光に、全国の日本山岳会会員をお迎えすることはこの上ない素晴らしいことであると自負しております。そのような訳で、記念講演として飯野達央氏に「近代登山とアーネスト・サトウ父子の日光への山旅」と題して講演をいただくことになった。

来賓のご挨拶に引き続き、本日のメイン・イベントである記念講演が始まった。講師の飯野達央氏(68歳)は栃木県の自然環境行政を永年担当され、平成21年8月には皇太子御一家の那須登山のご案内をされた。県庁退職後、平成24年「天空の湖と近代遺産」を出版、平成28年「日光学 聖地日光へ アーネスト・サトウの旅」を出版。現在は栃木県立博物館協議会会長。

(注)アーネスト・サトウの略歴

飯野講師の講演資料より引用

- 1843年(天保14) ロンドン生まれ、「サトウ」の姓はドイツ東部の小さな村「S A T O W」に由来している。
- 1862年(文久2年)9月、幕末動乱期に日本の領事部門通訳生として横浜に着任(19歳)。
- 1869年 英国のパークス公使に随行し江戸城で明治天皇に謁見(26歳)
- 1871年(明治4年)、武田兼と結婚(28歳)
- 1875年「日光案内」(英文によるガイドブック)を刊行(32歳)
- 1877年(明治10年)、7月富士登山、9月～10月榛名山、日光白根・男体山縦走
- (*)サトウが男体山をアタックした2カ月前に、

大森貝塚の発見者であるアメリカ人生物学者のエドワード・モースも男体山に登頂し、山頂で祭祀遺跡を確認している。

サトウやモースの男体山登山により 日光の山々は「信仰の山」から「近代登山」へと幕開けしていった。

1878年(明治11年) 大町側から 針ノ木峠越えの立山登拝路を辿り北アルプス北部を横断(35歳)

1881年(明治14年) 奈良田から南アルプスの間ノ岳・農鳥岳へ登頂

1883年(明治16年)3月 次男久吉誕生(40歳)

1895年(明治28年) ビクトリア女王よりサー(Sir)の称号を得る。日本駐劄特命全権公使として来日(52歳)

1896年(明治29年) 中禅寺湖南岸に山荘を構える(53歳)

1906年(明治39年) 外交官を引退。次男武田久吉と日光を旅する。

この旅が、サトウの生涯最後となる日本での山旅となった(63歳)

1929年(昭和4年) 引退生活を送った英国のオタリー・セント・メリーで死去(86歳)

・日光開山

日光山の歴史は、沙門勝道(勝道上人)の男体山開山(766年)に始まったと伝えられている。

・近代登山の黎明とサトウの足跡

近代登山は、山々からの眺めを風景として楽しむ英国の「風景嗜好」とスポーツの結びつきにより発祥したといわれている。このため、日本における近代登山の扉は、登山家で宣教師であったウォルター・ウエスタン(1861～1940)などのイギリス人に影響を受け開かれていった。

英国外交官であったアーネスト・サトウもウエスタンに先駆け、北アルプスや南アルプス、そして日光連山の山々を踏破し、日本に近代登山を導入した先駆者のひとりである。

・武田久吉と日光

サトウの滞日期間は通算25年近く、大の親日家であった。明治4年に武田兼と結婚し、2男1女をもうけている。

次男が植物学者で、明治38年の日本山岳会設立時の7人のメンバーのひとりで、のち日本山岳会第6代会長、日本山岳協会初代会長を務めた武田久吉(1883～1972)である。

武田久吉は、昭和16年に刊行された「尾瀬と日光」の著書の中で、自己の登山史をこのように書いている。

「私の登山史は、日光の山から始まったといってよい。

明治31年8月末、日光三山がけの時が最初であった。

尾瀬への初めての旅は矢張り日光からである。(中略)

私の心の奥には、日光山の名は第二の故郷ともいふ可き程の反響を呼び起こすに十分である。」

明治31年の「日光三山がけ」は兄の栄太郎とともに、女峰山、大真名子山、男体山の三山を跋涉している。女峰山頂付近で初めて目にしたハイマツの群落に大きな感動を覚え、その後、女峰山は植物研究の実学の場となり、植物学者の牧野富太郎などとともに植物の調査を行い、ニョホウチドリなどの新種の発見を間近で観ている。この経験が植物学者として登山家・武田久吉の原点になったと考えられる。

明治39年、サトウは久吉と日光への最後の旅にでた。金精峠には、久吉ひとりで向かい、ヒメウスユキなどを採取している。採取したヒメウスユキは、現在、標本として国立科学博物館に収蔵され、二人の日光への山旅の思い出の品となっている。

<懇親会>

記念講演終了後、会場の日光自然博物館の展示コーナーをホテルへ向かうバスの発車時刻を気にしながら短時間で観覧。展示内容はなかなか充実しており、時間の余裕があればじっくりと観覧したかった。

光徳温泉のホテル「アストリア」にチェックイン。今回の参加者は160人で全館貸切りとのこと。懇親会場は160人の熱気で大変な盛り上がりである。北九州支部からの出席は日向支部長と小生の二人で対面は青森支部の三

役(中村支部長、須々田副支部長、尾崎事務局長)が勢ぞろい。来年の支部懇談会は宮崎支部主管で5月に開催される予定。今回は荒武支部長以下15人が参加。席上、小林会長、重廣副会長から6月総会で退任されるとのご挨拶があった。ただ、重廣副会長は退任後も日本山岳会創立120年の記念行事(ヒマラヤを巡るトレッキングと登山プロジェクト)の推進役は引き続き担当することのこと。

懇親会が最高に盛り上がったあと、さらに二次会も開催され楽しい交流の場となった。

<5月26日>

当初、交流登山コース(切込湖・刈込湖ハイキング)に申し込んだが解散予定時刻を考慮して、観光コース(英国・イタリア大使館別荘記念公園見学)に変更して行動した。記念講演で予備知識を得たが、実地見学して欧州の大使館別荘の立地条件がいかに自然に溶け込み、借景にウエイトをおいて建てられたかよく理解できた。

中禅寺湖の南岸は西方に奥白根、前白根を眺める絶好の位置にあり、5月下旬沢筋にはまだ雪がかなり残っており、関東以北の最高峰(2578m)の貴録を十分に見せていた。日本山岳会設立100周年の記念行事のプレ山行として企画した奥白根・男体山の百名山めぐりに参加された北九州支部の藤田さん大城戸さんなどの先輩方、会友の助田さんご夫妻(北海道支部所属)のお元気な姿を思い起こし感無量であった。

参加者 2人 会員 日向祥剛、関口興洋

多数のご観覧に御礼!

伊藤久次郎と弟子たちの木版画展

版画同好会

伊藤久次郎



田川市美術館会場で 写真:伊藤久次郎

北九州支部の版画同好会は、令和元年5月21日から26日までの間、田川市美術館で開催された伊藤久次郎木版画展に参加出品しました。個展として開催した私伊藤が50点、現在同好会で木版画を勉強している弟子たち5人(馬場基介、竹本正幸、丹下香代子、立石シマ子、平賀裕之)が1人2点ずつの計10点、合計60点を出品しました。

まずは、初日にNHKテレビが取材、2日目の放送でお客さんが増えました。テレビニュースを見て遠いところから来られた方々がかなりいました。やはり、放送された炭坑時代全盛期の田川を描いた赤富士ならぬ赤い香春岳「青春時代の香春岳」(2018年作)が人気だったようです。全体的に木版画の展覧会というのは、地元では珍しく、特に色刷り版画では実物を並べての説明で大変感心して見ていました。また、中には山好きな人もいて、山岳会に入会すれば版画を学べるという人もいて、おかげさまで版画同好会に弟子が増えそうです。さらに、北九州支部への入会希望者も3人ばかりいました。

なお、この展覧会の準備から後片付けまで、多数の支部会員のお手伝いがあったことで事がスムーズにいきました。そして、更に多数の支部会員のご観覧をいただき厚く御礼申し上げます。有り難うございました。

< 報告 > 行事 ・ 山行 ・ 研修

3月23日(土)～24日(日)

やくし山・マロン岩峰・北山犬切
(熊本県)



23日 やくし山～マロン岩峰

24日 七辺巡～北山犬切

23日8時40分に山江SAに集合し長やぶ谷登山口へ向かう。

登山口は砂防ダム工事のために駐車できず少し先の路肩に駐車する。登山道はいきなり急登で始まるが尾根に出ると樹林帯の気持ち良い登山道です。

幾つかのピークを越えてやくし山に到着、ここで昼食タイム。昼食後やくし山の福寿草群生地へ下るが福寿草はすでに終わっていた、代わりにトリカブトの新芽が沢山出ていた。

やくし山からは一旦林道へ下り反対側の尾根を登り返す、マロン岩峰手前で展望が開け綺麗な栗の形をした特徴的なマロン岩峰を見ることができる。登山道はヤマシャクヤクの群生地です。沢山の新芽が出ていた、マロン岩峰へはここから細尾根をよじ登る。山頂は思ったより広い。記念撮影を済ませ帰りは林道を通りやくし山を迂回して下山。

下山後は今夜の宿、尾寄崎キャンプ場へ。夕食は、モツ鍋とカレー鍋、サプライズで山女の塩焼き(みなさん盛り上がっていました)。尾寄崎キャンプ場の管理人さんが山女の養殖場をされているので1尾200円で分けて頂いた。

翌日は相良温泉で和田さんが合流、登山口の泉五木トンネルへ向かう。登山口からは尾根まで急登を登るが尾根に出れば快適な尾根歩きを堪能できる。この時期は草が枯れていて歩きやすい。

南山犬切を通過し七辺巡りへ到着、ここはバイケイソウの群生地です。5月を過ぎるとバイケイソウで登山道埋まり道が分からなくなる。ここからは一旦林道まで下り上福根山の分岐まで登り返す。ここの登山道はトリカブト



右: ヤマメの炭火焼き (写真: 塚本久嘉)

左: マロン岩峰で (写真: 塚本久嘉)

ていた。山頂で昼食後、登山口へ引き返した。今回は2日とも天気に恵まれ気持ち良い山行でした。下山後、五木温泉にて入浴後解散しました。

参加者: 16人

会 員 馬場基介 赤瀬榮吉 縄手修
大谷恵美子、塚本久嘉、清家幸三、
小林英世、花田拓二、藤原玲子
支部友 和田敦子、山下香代子、田中幸弘
ビジター 田中哲郎、坂井寛、河野文子、
柴田芳美

4月7日(日) 九州オルレ(宗像・大島コース)
潮の香りのするいつもと違う山行
北九517 木戸 恵



風車展望所で・草花の写真を撮りながらの楽しい山行 (写真: 清家幸)

コースタイム

神湊港7:25～筑前大島港9:50～フェリー乗り場10:10
～お土産屋～中津宮10:15～御嶽山展望台10:53～
展望台(昼食)12:18/12:45～風車展望所12:55～
砲台跡13:05～沖津宮遥拝所13:35～大島フェリー
乗り場14:05～フェリー～14:50神湊港15:05

海を渡る今回の山行は、船の時間に間に合うように早い時間に東郷駅に集合し、そこから港まで車で移動し無事に乗船。大島に着いて、いつもの山行にはない海産物やおいしそうな海鮮丼の看板を横目にスタートしました。

まずは、宗像大社中津宮で安全祈願をし、可愛い鯛のおみくじに和みつつ、御嶽山を目指します。

登山口では可愛い案内子の出迎えが、登山道では最後の桜がいろいろをみせてくれました。また、九州オルレのルートなので、赤や青の印がいたるところにあり、猪除けの手づくりの鈴までも青赤に染められていました。頂上につくと、楽しみにしていた沖ノ島は…PM2.5?? 気候? のせいか拝められず、すごく残念でした。御嶽山から昼食場所の風車を目指しますが、早朝の出発でシャリバテ気味で予定も遅れていたの、その手前の展望台で昼食に。その後、風車から砲台跡へ。その砲台跡から眺める海と風車の景色は、絵画が写真を切り取ったように印象的でした。帰りの船の時間を気にしながら、沖津宮遙拝所に。気象条件がよければ社から沖ノ島がみえる聞き、ここに住む方の信仰の深さを想像しつつ、やっぱり沖ノ島が見えたらよかったなあとつくづく思っていました。そして、足早に港へ、忘れずお土産の海産物も買い物し、帰途につきました。

予報されていた雨もふらず、終日天気恵まれ、潮の香りのするいつもと違う山行となりました。車を出して頂いたり、山行のお世話をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

参加者 17人

会員 原広美 榊俊一 竹本正幸 竹本加代子
赤瀬榮吉 森本信子 三浦利夫 塚本久嘉、
町元里香 清家幸三 小林英世 三宅明子

準会員 太郎良嘉親

支部友 網塚陽子 木戸理恵 竹中信枝 米澤眞智子

5月12日(日) 英彦山清掃登山に参加して
『令和に昭和のゴミを憂う』

A0208 萩原 直樹



缶・ビンひろい 出るわ、出るわ! (写真:丹下香代子)

プロアドベンチャーレーサーの田中陽希は、二百名山である英彦山登頂後、「英彦山は別格。想像よりも上をいっている。」と述べた。日本有数の霊場であり、山全体が英彦山神宮の御神体でもあり、山全体に立ち込める荘厳な空気が、後に二百名山を覇した田中をもってそう言わせたのだろう。

私も、この英彦山の荘厳な雰囲気魅かれ、英彦山を愛する登山者(=ヒコニスト)の一人である。今回、山岳会主催の英彦山清掃登山に「日頃山に登らせて貰っている感謝の意味」を込めて参加した。当日は、春の陽気の中、日本山岳会北九州支部、筑豊山の会、添田町職員が集り、当会支部長の挨拶後、ルート別に分かれての登山となり、私は高住神社から北岳を経由して中岳を目指すルートを選択した。途中、ルート上には目立ったゴミは無く、中岳山頂に着くまでは、四方に目を凝らし、言わば「ゴミを探しながら登る」登山となった。山頂で、再度各ルートの参加者が集合した後は、中岳南斜面の放置ゴミの回収作業が始まった。すると、この辺りは登山道とは

随分違ってゴミが散乱しているのが目に付く。いざ回収とばかりに、急斜面を恐る恐る降りると、熊笹に隠れたガラス瓶、土と一体化した空き缶・プラスチックゴミの数々。空き缶を拾い上げると、昭和デザインの「アサヒビール」や「ファンタ」缶。ここは、神や仏が住む聖域の常寂光土のはず。かつては汗を流すことも、涙も流すことも禁じられた清らかな区域であったのに、なぜゴミを捨てたのか。嘆くどころか、呆れてしまった。ゴミを残したまま作業を終えると、今度は山頂バイオトイレの使用済みチップの分担・下山作業が始まった。屋外に並べられた数十袋の「排泄物の混合物」は、1袋10Kg近くあり、ビニール袋で幾重に梱包しているとは言え、見るからに破損の危険が極まりない。「これを持つのか。」と一瞬躊躇したものの、今回の目的は、言わば山への恩返し。登山前に会の備品の背負子を借りていたので、慎重に2袋乗せ、落下防止に万全を期しながら、背負ってみると20Kg越え。勢いで2袋取ってしまったことを悔やみながら、気合を入れて背負子を担いで下山を開始した。途中のボッカ道で足を取られて尻もちを着いたときは冷や汗が出たが、かろうじて袋の破損を免れ、気力で何とか別所駐車場まで運び終えた。今回、英彦山清掃登山に参加して、英彦山の負の一面を改めて知ることになった。このまま山岳会が中心となって、山頂付近の放置ゴミを回収するには何年かかるのだろう。傾斜のきつい斜面のゴミの回収作業は、いくら経験豊かな山岳会会員と言えども滑落や落石の危険極まりない作業である。

このいわゆる昭和のゴミは、登山者、行政、町民、英彦山神宮等が一体となって解決すべき問題ではないか。あくまで主体は行政であり、この隠れた英彦山のゴミの存在を広く登山者、町民に知らしめ、山岳会は技術的な、

指導を行いながら、多くの人の助けを借りてゴミを回収することが必要であろう。また、バイオトイレの排泄ゴミの処理に関しても、設置した関係者だけに任せるのではなく、恩恵を受けている登山者に金銭的な負担も含めて、もっと協力を求めて然るべきではないか。



バイオチップと集めたごみ (写真:丹下香代子)

参加者：29人

会 員：日向祥剛、園川陽造、原広美、井上禮子、
馬場基介、磯野文雄、関口興洋、丹下洽、
丹下香代子、竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、
森本信子 縄田正芳、縄手修、奥田スマ子、
町元里香、清家幸三、小林英世、横山秀司

準会員：太郎良嘉親、萩原直樹

支部友：目原礼子、網塚陽子、城戸剛、里耕三郎、
松岡文子、米澤眞智子

ビジター：吉野隆士

5月25日(土)～26日(日)

英彦山山開き山行報告

15806 清家 幸三



英彦山山頂で (写真:榊 俊一)

5月25日は19時00分より前夜祭が行われた。54回を迎える。今年も英彦山青年の家に12人が前泊で参加した。

私たちを含めてこの日の宿泊者は100人で全て山開きの参加者である。前夜祭の行事の内容は毎年恒例で変わらない。続けて参加すると英彦山の由来を覚えていく。そして清掃登山や炭坑節の踊りに参加しているとこの日は年に一度、添田町町民になる。終了後は焚火を囲んでカッポ酒を飲む。自然の中での火との出会いはひそかに隠れていた感動の気分を呼び戻していつもの酔客と化して祭り気分浸った。

明けて26日は朝8時30分に当日参加者8人(3人は正面参道)と合流して計17人が9時00分前に頂上祭に向けて出発した。この時期には早いのが数日前より高温注意報が出されていた。前夜祭での浮かれた気分もあり、時間をかけてわいわいがやがや話しながら、小鳥たちの声も静まる山行となった。コースはバードライン～北西尾根コースで頂上へ向かった。毎年同じで変わらない。水分補給を30分おきにこまめにとり新緑に浸りながら予定通り10時20分に頂上へ着いた。全員20人が神事の行われる上宮へ入り11時00分からの行事に参加した。代表の竹本副支部長の玉串奉てんに合わせて山の安全を祈り参拝した。最後の万歳三唱は馬場基介さんが一般登山者も含めて代表して執り行い神事を滞りなく終えた。その後、昼食を済ませて12時15分下山を始めた。正面参道から～途中、ポッカ道に入り登りのバードラインを通り14時00分に英彦山青年の家に全員が無事に下山した。

今年の特徴は新しい会員が参加した山開きだった。いつもと変わらない行事、登山コースまで同じであったが参加者の魅力ある笑顔が清々しい新緑に溶け込んで暑さも疲れも感じさせない一日となった。この参加者のすばらしい笑顔だけは確実に変化している今年の山開きだった。これからもこの笑顔をもって山行を続けていきましょう。

最後に仕事で参加できなかった三浦利夫さんに山行計画書を作成していただきその内容通りに出来ましたことをご報告致します。

参加者 20人

会 員 馬場基介 丹下洽 榊俊一 丹下香代子
大内喜代子 竹本正幸 竹本加代子
赤瀬榮吉 塚本久嘉 町元里香 清家幸三
小林英世 三宅明子 松本重裕

準会員 太郎良嘉親

山下香代子 塩谷夕子 木戸理恵
松岡文子

支部友 目原礼子

平成31年4月28日～令和元年5月3日

特別山行・「涸沢」バスハイク

『憧れの上高地へ』

A0172 太郎良 嘉親



横尾大橋で (写真:太郎良嘉親)

『初めての北アルプス雪山登山』

北九494 和田 敦子



涸沢へ (写真:太郎良嘉親)

4月28日 門司からフェリー(新しくてきれいなフェリーでした。部屋も2段ベッドで快適です)・4/29泉大津着～バスで上高地へ(山研泊)。ウェストン碑まで散策。

4月30日生憎の雨の中を涸沢に向けて出発。涸沢小屋泊。涸沢小屋の食事は夕食も朝食も私的にはおいしい料理でした。

5月1日ちょっと日が差してきたかという時もありましたが、この日も概ね雨です。横尾山荘泊。横尾山荘は部屋も乾燥室も広くきれいでした。

5月2日ようやく天気回復した時に上高地へ向けて出発です。ですが、上高地前でまた一時的に雨です。今回は雨の多い行程でした。津山の久米ロッジ泊。

5月3日とても良い天気。途中、運転手さんより白山が見えるのを教えてもらいパーキングで写真撮影。

今回残念なことに新しい靴のため、憧れの上高地へ来たという幸せな気分が半減しましたが楽しい旅行でした。リーダーの塚本さん、運転された堀内さんほか皆さまありがとうございました。

参加者：19人

会員：大内喜代子、縄田正芳、清家智絵、塚本久嘉、中畑智子

準会員：藤原玲子、太郎良嘉親

支部友：井上薫、和田敦子、目原礼子、安達美保、松岡文子、宇都宮浩

ビジター：田中哲郎、坂井寛、河野文子、松岡憲保、柴田芳美、佐伯準一

4月29日大阪の泉大津港で合流し、上高地に向かった。

1日目は上高地を散策。ルリビタキ、キビタキなど普通に生活していたら見ることのできない鳥を見ることができて、テンションも上がりました。2日目からは上高地から涸沢小屋を目指します。初めての北アルプスの雪山登山、九州で何度か雪山を登っているからと、軽い気持ちで行ってその厳しさを実感します。夏の北アルプスや九州の雪山では経験することのできない雪、一步一步がとても重く、距離は長い。まだ着かないのかと思いつつも懸命に足を前に進めました。途中、雷のような音を立てて雪崩が流れてくるのを目撃したり、全く音のしない真っ白な雪山に囲まれた登山道を歩く。静かな世界はまるで異世界のように、自然の素晴らしさ美しさに感動すると同時に恐怖感も感じました。なんて大きくて静かな世界、すごいところに来てしまったいろんな感情が湧き上がります。しかし、涸沢小屋に着くと、おはぎや焼きもち、ホットカルピスなど美味しい楽しい時間を過ごし、横尾山荘に下りてきてそこから上高地へ。抹茶ラテやハニートーストなどなど雪山と同時に美味しい北アルプスを過ごす事もできたのでした。

平成が終わり令和が始まったその瞬間に山にいたことができたこと、とても記念になりました。楽しい四日間ありがとうございました。

地域連携事業

幼稚園児登山サポート

3月14日 さいわい幼稚園卒園登山

『矢筈山林間学園キャンプ場の歴史』と
卒園記念登山サポート
14264 丹下 洽

この日、園児たちは加パーティをしました。(写真:丹下香代子)

矢筈山(266m)には明治20年ごろ関門海峡防備のため堡壘が築かれた。昭和28年門司大水害を機に保守林に指定された。昭和35年門司市(当時)と姉妹都市であったアメリカ・ノーフォーク市の親善使節団・団長「スナイダー博士」より青少年のためにと100ドル(当時1ドル=360円)寄付を受け、市民の浄財と共に青少年教育に資する事となった。昭和41年保安林の指定が解除され、昭和42年宿泊施設、45年シャワー、46年上下水道、電気、水洗トイレ等諸設備が完成し市営「矢筈山林間学園キャンプ場」として完成した。

初代管理人として、堤甚五郎氏(JAC4162)が就任され厳格に情熱をもって運営に尽力された。又、氏の薫陶を受けた地元の山岳会、野外活動グループが市営となる以前より手弁当で登山道の整備、壕の清掃、井戸さらえ等に力を尽くした事も忘れてはならないでしょう。しかし、昨年の豪雨により登山道(未舗装の車道)が一部崩壊。その為キャンプ場閉鎖との話が起り、それに対して北九州支部としては存続すべきとの考えで署名運動に参加し、各方面へ働き掛けるべく準備中でしたが役所より登山道を復旧しキャンプ場は存続するとの報がありました。

そのような中3月14日(木)「さいわい幼稚園」の卒園記念ディキャンプの支援を行いました。小森江子供の森公園に集合。昼食のカレーライス/materialを全員でリュックサックに入れて担ぎ上げました。毎年5月に遠足登山に付き添う私達へのお礼の気持ちの入ったちょっと甘口のカレーです。子供の食欲は旺盛、しかし楽しい時間はアツと言う間にすぎます。子供の森公園でお別れです。この子供達に「幸多かれ」と願うばかりです。

又いつの日か、再見!!

参加園児:16人(未就園児+2人)

保護者+園職員:16人

サポート会員 6人

馬場基介 丹下洽 丹下香代子

竹本加代子 池田智彦 町元里香

門司歩こう会:小田幸男会長

5月15日・5月17日 さいわい幼稚園年少・年長組ハイキング

風師山遠足登山サポート

14853 竹本 加代子



風頭で記念撮影 (写真:花田拓二)

5月15日10時30分幼稚園バス到着。年少さんがバスから降りてくる。小さ〜い! 可愛い〜い! 小さな体に大きなリュック。もう目を細めるばかり。園児20人、保護者12人、職員7人、今日は年少さんの風頭まで700mのハイキング。あなたたちに会えるのを楽しみにしていました。サポートに来たのに元気をもらって帰るサポート隊です。赤いハビイチゴを見つけたり、木の実を見つけたり、ミミズを見つけて立ち止まったり、お母さんやお父さんと一緒に楽しそう。ちょっと疲れた子はアリさんに励まされる。「アリさんお仕事! お仕事!」と親子の姿。風頭までのアップダウンを難なくクリア。風頭で少しばかり遊んで集合写真。今日は園に帰って給食です。お山で楽しいお弁当とはなりませんでしたが良く頑張りました。

5月17日11時幼稚園バス到着。年長さんがバスから降りてくる。やっぱり、さすが年長さん、しっかりしています。今日は園児32人、保護者32人、未就園児3人、職員7人です。園長先生挨拶「よ〜いドン! で一番にならなくて良いですから、ゆっくり登りましょう。」と元気いっぱい年長さんへの声かけ。丹下会員の蜂やへびに対する注意に聞き入り、風師山で出会ったタヌキの写真に園児たちに囲まれる。900mほどの歩きもペースが速い。不慣れな山のトイレでハプニングはあったが手を貸

すこともなく、まず風師山山頂へ。集合写真を撮り、長さんは親子でお弁当タイム。食後はお決まりの岩登りです。自然は遊び場になる。下山もスムーズで風頭に立ち寄り無事に駐車場到着。丹下会員から折り紙のプレゼント、登った人だけのごほうびにと缶バッチもプレゼントです。

子どもたちの小さな冒険、初めてかもしれない山登り。この経験が思い出として残り、いつか自然を愛する人、山に親しむ若者になる日がくることを願う。



タヌキの写真に園児たちが囲む (写真:花田拓二)

サポートメンバー：7人

馬場基介 丹下洽 丹下香代子 竹本加代子
奥田スマ子 町元里香 花田拓二

門司歩こう会：小田幸男

戸の上山登山会：壱岐勝

4月13日～14日 第1回指導員研修会

「指導員研修会総会」

15624 三浦 利夫

今回の指導員研修は、玄海青年の家から予定を変更し前泊を伴い平尾台で実施されました。

宿泊先の平尾公民館(平尾台麓)で懇親会が開かれ、食料計画に基づいた夕食の芋鍋を出席者で囲み、酒を酌み交わし山の事をはじめ色々な話題について語り合いました。危険を伴う山では、同伴者がお互いを良く知り意思疎通を図る事が必要で、園川顧問が大切にされている事であり良い機会となりました。

今回は、2019年度第1回目の指導員研修であり公民館において、「指導員研修会総会」を開催し、2018年度指導員研修会事業報告及び会計報告並びに2019年度指導員研修会事業計画が提案され承認されました。また、「日本山岳会北九州支部指導員規定」について見直しを行い、昇級の為の習熟年数等が改訂される事になりました。



総会の後は岩場でレスキュー (写真:清家幸三)

会場を見晴し台近くの岩場に移し実地研修が行われました。ハーネス、ヘルメット等のクライミングの装備を整え研修に臨み、懸垂降下、登攀の訓練を行いました。出席者は少しでも技術を習得しようと真剣な眼差しでお互いの訓練を見守っていましたが、登攀では岩場に手がかりが少なく難儀していました。

実地訓練の後は、更に会場を平尾台自然観察センターに移し机上講習となりました。支点の取り方や荷重に対する考え等の技術的な講義の後、指導員としての人への伝え方、心構え等についての指導がありました。

人へ伝える為には自分自身が本当に理解して説明する事が重要であり、テーマを絞る事でより理解度が高まる事や、実際に起きた事例を交えて説明すると印象に残る事などを教わりました。

研修の中でお話をされました「やってみせて、言って聞かせ、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」山本五十六のこの言葉は指導員というリーダーに求められる行動の規範であると思います。

より多くの皆様が“安全・確実にかつ楽しい登山”ができます様に、指導員として経験を積みレベルアップを図る為日々研鑽していきたいと思っております。

ご指導頂きました園川顧問をはじめ、指導員研修会をご準備いただきました清家マネージャー、町元サブマネージャー並びに出席されました指導員の皆様お世話になりました。ありがとうございます。

講師 園川陽造 顧問

参加者 10人

指導員B級 竹本正幸 竹本加代子

三浦利夫 森義雄 松本重裕

指導員C級 赤瀬榮吉 町元里香

清家幸三、三宅明子

(奥田スマ子:懇親会)

5月19日(日) 平尾台岩登り教室
「ロープワーク」は厳しい山での命綱

北九 516 塩谷 夕子



立ち木を利用して宙吊りからの脱出 (写真:竹本正幸)

この度、初めて岩登り教室に参加させて頂きました。集合場所に着いたころには激しい雨が降り、室内での講義とロープワークを受講しました。竹本講師による講義では、岩登りの歴史やアルプスでのご経験、登る技術や道具の機能性、危険への心構えなど。迫力あるお話に引き込まれました。その後のロープワークは厳しい山での命綱になるのですが、1本のロープが魔法の様に色々な形に変化し尽きることなく楽しいものでした。又新しい形や使い方など教えて頂くのが楽しみです。とても充実した時間となりました。午後は、雨も上がったので、立木を使っの宙吊りからの脱出の練習を交替でしました。歳弘会員が調べてきた方法も試してみましたが、色々工夫されていることに感心しました。最後に竹本さんが唐手岩の下見に二度行き、支点のチェックや足場の整備をしたとのこと。ありがとうございました。

<岩登り教室>

参加者: 13人

会 員: 板倉健一 竹本正幸 竹本加代子
赤瀬榮吉 森本信子 縄手修 森義雄
歳弘逸郎 塚本久嘉 松本重裕

準会員: 田中清貴

支部友: 城戸剛 塩谷夕子

<第2回山岳専科>

講 師 園川陽造顧問

参加者 7人

会 員 竹本正幸 竹本加代子 赤瀬榮吉
森本信子 縄手修 三浦利夫 清家幸三

3月10日(日) (代替日)
第2回山岳専科 「テーマ・気象」

14852 竹本 正幸



講習を終えて記念写真 (写真: 竹本正幸)

風雨強まる中、駐車場に8時30分集合。森本さんを除く6人は指導員研修のメンバーです。

雨の中の登山も指導員には必要なことで中止する理由は全くない。との園川講師の一言で登山決行となる。雨対策も万全に班分けはせず、一列に並んで歩き出す。途中2回の休憩でビジターセンターに10時30分ごろに着きタイミングよくセンターも開けたところでした。いつもの通り、炭水化物も枯渇状態になっているので、先に昼食を摂ることになった。食べてしまうと後の楽しみが無くなってしまふのが寂しい。

11時30分から気象の座学となる。皆さま気象予報士の候補者は、真剣に園川講師の話に耳を傾ける。

「秋の夕焼け鎌を研げ」「下駄が裏向きになると雨になる」「猫が顔を洗うと雨になる」とことわざから入り、注目を集める。高気圧、低気圧の仕組みから気団の話、前線の特徴からの雨の領域等々。

8日から10日までの天気図が三浦さんから配布されたので天気動きがリアルタイムで認識できた。更にこの天候がどうなるか予測するのが楽しい。スマートホンでアメダスを見るとすぐに分かるが、天気図が読めるということは、地図の読図と同じで、雨の中の登山も楽しくなる。スマートホンのスマートとは何でしょうか。次から次に講師の質問が出ます。14時頃に終了して、滑りやすいので車道を通って下山する。

昔は天気図を書けるまでかなり練習をしたが、最近インターネットで簡単にみることが出来る。しかし、天気図が書ける、読めるということは、それなりの知識がないとできない。やはり、集まって天気図を書いてみるのも無駄ではないと思う。

天気図を見てこれからの天気を予想できるようになると、登山がさらに楽しくなると思います。

3月28日(木) ポレポレ山行 南阿蘇バスハイク
 「火の山と湧水の里を訪ねて」
 北九 521 米澤 眞智



大野勝彦風の丘美術館で (写真:丹下香代子)

4月25日(木) ポレポレ山行 花尾山
 「伊藤先輩の伝説のはじまり」
 北九505 城戸 剛



雨の中シャガの花を求めて (写真:伊藤久次郎)

早朝下関駅で電車を待っていると、「JR関門トンネル電車事故」とのアナウンス。急遽唐戸の渡船場より門司港へ。CLの丹下さんの計らいで、バスが回送され予定より50分遅れで門司港を出発し一路熊本へ。

まず「一心行の大桜」へ、残念なことに桜はまだ早かったようです。阿蘇盆地に入ると、先の大地震の爪痕がまだまだ残っており、阿蘇大橋の惨状には心を痛めました。昼食は根子岳の素晴らしい山々を見ながら、郷土料理

「高森田楽保存会」で明治の風情を残す部屋で、全員田楽を味わいました。

食事のあと「高森湧水トンネル公園」に入り、阿蘇湧水の水量に圧倒され、水を利用した数々のイベント等、特にクリスマスファンタジーには心を洗われた感じになりました。雄大な阿蘇の草原に広がる「風の丘阿蘇 大野勝彦美術館」に入るとそのユニークな自然を取り入れた柔らかな絵と文字の数々にウツリと見入ってしまいました。初めて見る阿蘇・豊後高森の水の自然・郷土料理・心の和む詩画に触れあい、南阿蘇から帰路に向かい、バスの中で会員の方々と語らいながら今回のバスハイクを終えました。

私は4月から支部に入会しました、時間の許す限り参加させていただきたいと思います。

今後共宜しくお願いいたします。

参加者:20人

会員 関口興洋 伊藤久次郎 原広美 井上禮子

丹下洽 丹下香代子 大内喜代子

縄田正芳 奥田スマ子 中畑智子

準会員 藤原玲子 太郎良嘉親

支部友 松田幸恵 立石シマ子 山口得千代

宇都宮美智子 星出清美 里耕三郎

竹中信枝

ビジター 米澤眞智子

今回初めてポレポレ会の山行に参加させて頂きました。今回はシャガの群生地が見られるということと山の先輩たちとの山行ということで楽しみでした。「伊藤先輩の伝説のはじまり」8時30分に山口県にある東行庵駐車場に集合。自己紹介を済ませ各車に分乗。私は伊藤さんの車に乗りいざ登山口へ出発。途中トイレ休憩のため道の駅でトイレを済ませ再出発。伊藤さん「では行きましょう！」あれ?! 何か変? 私「関口さんが乗っていないですがいいのですか?」助手席に乗っているはずの関口さんが乗ってないまま発車! 慌てて車を停めて私が関口さんを迎えに行くハプニングが発生しました。隣の席なのに…伊藤先輩がやっちゃいました(笑) 気を取り直し再出発。車列を組んで登山口まで行きましょう。あれれ? 次は?… ガソリンスタンドへ。給油です(笑)いいんです!これがポレポレです。やっと登山口に到着しました。3台で来ていて登山口の駐車スペースにはギリギリ3台は止められるスペースはあったけど、原さんが「もう少し上にも止められますよ。」って言うから私の乗っている伊藤さん号は考える暇も与えず上へ移動。すると、あれっ? 群生地? あれれ? これが群生地じゃ? シャガの群生地が車窓からの観賞になりました。(笑)シャガの群生地を過ぎた所に駐車して登山スタートです。

伊藤さんたちが準備をしている間に私だけ一旦下り他のメンバーさんと合流してシャガの群生地を車外で楽しみました。全員揃ってから花尾山へ登山スタート。山頂への登山道は急登つづき。ロープがあるところも数ヶ所あり。帰りにこれを下ることを考えると笑うしかありません。またこの日は生憎の天気です。足元も悪い状態でした。10時前に登り始めて11時40分くらいに登頂しました。記念撮影を済ませて木陰のある所まで下り昼食タイム、13時に下山開始。13時30分に車まで戻ってきました。円陣になり解散の挨拶と今後のポレポレ会の活動予定などのお話しをしてこの場で解散することになりました。ゆっくりと楽しい山行でした。

しかし伝説は終わっていなかった。私の車がある東行庵駐車場までの戻り、登山口から小月方面に向かうはずが何故か萩方面に快走(笑)何とか途中で気づいて引き返し駐車場まで戻って来られました。

「今日の教訓、下山後の運転は気をつけ」

参加者 11人

会 員 :原広美 伊藤久次郎 井上禮子 関口興洋
丹下洽 丹下香代子
支部友: 立石シマ子 城戸剛 里耕三郎 竹中信枝
米澤眞智子

5月16日(木) ポレポレ山行 <平尾台>

平尾台南の大地

16163 中 畑 智 子

コースタイム:

千貫駐車場9:00~ラクダ山9:58/10:19光水鍾乳洞
10:40/10:50~駐車場11:12~三笠台11:23~風神山
11:34~不動窟12:06~せんぶつ岩場12:20せんぶつ茶屋
(昼食)12:48/13:30~堂金山13:52/14:03~不動山14:09/
14:27~風神山14:34/14:47~大かんの台14:51~駐車場
15:09



ラクダ山山頂で (写真:伊藤久次郎)

北九州にある平尾台は石灰岩で形成された、日本三大カルスト台地で天然記念物、国定公園に指定されており羊の群れのように見える洋群原や、すり鉢状の窟地、地下では川が流れている千仏鍾乳洞など見る事ができます。又、草花の宝庫でもあり心を和ましてくれる素晴らしい所です。今日は平尾台南の台地でお花観賞登山をしました。

千貫岩駐車場を午前9時出発まずはラクダ山をピストン。ジャケツイバラ、タツナミソウ、カノコソウ等々の花が多く咲いていて、爽やかな風も吹き絶好の登山日和でした。次に三笠台、不動窟、クライミング岩場よりせ

ノンアルコールビールで乾杯をし山菜うどん、そばを美味しくいただき生き返りました。午後は行橋へ出る旧道を歩き堂金山から不動山、風神山、大かんの台、駐車場へ途中にシランが鮮やかな色で咲いていて疲れも吹き飛ばしました。

最後に絶滅危惧種の花フナバラソウも見られ、沢山の花に出会えて楽しい山行が出来ました。井上さん、奥田さ

参加者 15人

会 員 原広美 伊藤久次郎 井上禮子
関口興洋 丹下洽 丹下香代子、
大内喜代子 竹本加代子
奥田スマ子 町元里香 中畑智子
支部友 立石シマ子 宇都宮美智子、
星出清美 竹中信枝

6月6日(土)~7日(日) ポレポレ山行

<扇ヶ鼻> 14264 丹下 洽



扇ヶ鼻山頂で (写真:花田拓二)

「山はピンクに、人は優しく、6月ポレポレ山行」

予定より少し遅れて牧ノ戸峠着(10:30~10:40発)星生山がピンクに染まっています。「山くれない」ではありません。扇ヶ鼻の開花は6~7分、で花は楽しめます。扇ヶ鼻頂上で昼食(13:10~13:40)雨が近いのでしょうか遠目は効きませんが、九重連山は堂々たる山様です。

「大いなる 師に近づくに 似たるかな

久住の山に ひかるる心」 与謝野鉄幹

「草深野 ここに仰げば 国の秀や久住は 高し

雲をうみつつ」 北原白秋

下山は往路を引き返す。牧ノ戸で日帰り組と別れる。(16:30)黒川温泉「山みず木」で汗を流し「ユースホテル」へ向かう。

阿蘇・久住高原ユースホステル経営者の阿南氏は熊本支部の会員で「山の店シェルパ」「長者原モンベル」にも携わっておられる。数年前、「連山」主催のバスハイクで「風師山・矢筈山」に来られた時、ガイドの井上辰彦氏が急用の為、旧知の私共がピンチヒッターをお引き受けしたのが「阿南氏ご夫妻」との出逢いで熊本支部の支部懇や「合頭山～漁師山」のポレポレ山行でお逢いしたのが御縁です。

山行でかいた汗を温泉で流した後はビール・ビール！！美味しい夕食（鶏肉のソテー、野菜の炊き合わせ、団子汁、ご飯、デザート、コーヒー）の後、阿南氏の司会での自由なトークです。コーヒータイムの際、単独山行の方（私共はスタッフの方とばかり思っていました）が私共の近くに席を移され、問わず語りに近年逝去された最良の伴侶の方のお話を伺いました。「惜別の悲しみ」「追慕の情」心を動かされました。来年「ミヤマキリシマ」の開花期にここで会えるといいですね・・・再会を願ってのお別れです。朝食後、雨の中、阿南氏の案内で野草園を訪れる。春～秋、季節折々の花が楽しめます。山野草の好きな方は是非尋ねてみては。帰途、北里柴三



阿蘇・久住高原ユースホステル (写真：花田拓)

阿蘇・久住高原ユースホステル

(旧瀬の本ユースホステル)

熊本県阿蘇郡南小国町満願寺6332

TEL 0967-44-0159

参加者 8人

会員 井上禮子、関口興洋、丹下洽、
丹下香代子、花田拓二

支部友 城戸剛、里耕三郎

ビジター 上野太

● 図書の紹介

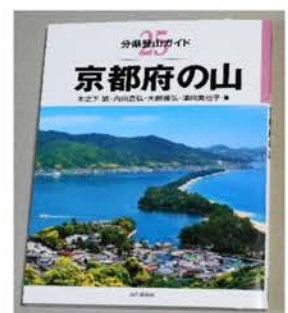
「分県登山ガイド京都府の山」 山と溪谷社
13499 伊藤久次郎

来年の大河ドラマの舞台！

「羽柴秀吉と明智光秀が対決した『天下分け目の天王山』は、山城と国境の要衝であった・・・」という書き出しで始まるのは、本書No.46の「天王山」のページである。さらにNo.48の「唐櫃越(からとごえ)」は、光秀が本能寺を攻めるときのルートのひとつとされ、人気のハイキングコースである。実は、来年のNHK大河ドラマは長谷川博己主演の明智光秀、「麒麟がくる」に決まった。姫路の黒田官兵衛に負けて、明智光秀の大河ドラマは絶対無い！ と思っていた、と言われるのは、JAC京都・滋賀支部の津田美也子さん。また実を申しますと、津田さんが私伊藤の版画展を見に遠いところから来てくださり、その際「北九州支部ルームの本棚にでも・・・」と戴いたのがこの図書「京都府の山」なのだ。著者は、木之下繁さん、内田嘉弘さん、大槻雅弘さん、津田美也子さんの4人の方が担当しているが、皆さん日本山岳会京都・滋賀支部の会員である。但し木之下さんは元会員で、内田さんの奥様昌子さんは、マナスル日本人女性初登頂者だそうだ。また大槻さんは私もお世話になっている一等三角点研究会の会長さんでもある。そして津田さんは、この本の中の全54山中「天王山」を含め7山を担当している。さらに彼女が住んでいる京都の長岡京は、光秀の娘、細川玉、のちのガラシャが細川忠興と新婚生活を送った勝龍寺城や、ガラシャが幽閉された京丹後市味土野が金剛童子山の麓にある。また大槻さん担当のNo.42「愛宕山」の山頂には、明智光秀が戦勝祈願に参詣した愛宕神社がある。そのようなことで京都府の山は、大いに歴史にかかわっている。そして天王山は、数年前京都で開催された一等三角点研究会の例会の際に北九州支部メンバー数人と登っており、その時の案内をして戴いたのが津田さんであった。そのほか加賀正太郎(JACのセブな大先輩で、日本人のユングフラウ初登頂者)の山荘であった大山崎山荘美術館や、朝の連ドラ「マッサン」の時のサントリー山崎蒸溜所などをガイドして戴いた。そのようなわけで来年の大河ドラマに備えて、ぜひこの新刊図書を読んで、歴史の京都府の山へお越し下さるよう4人の著者の方々は期待しているところである。その時は津田さんがふるさとガイドとしてご案内するそうである。

図書の購入希望者は
伊藤Qまで連絡下さい。
まとめて注文致します
8月末まで。

(定価1900円+税で
著者割引あり)



＜お知らせ＞ 行事・山行・計画

8月の山行

●沢登り

日程の変更があります。(7月7日→8月4日)

- ① リーダー 竹本正幸
- ② 期 日 8月4日(日)
- ③ 場 所 内住峡(飯塚市)
- ④ 集 合 午前10時 九郎原駅(篠栗線)
- ⑤ 装 備 沢靴(魚釣り用でもOK)
ヘルメット、ハーネス、カラビナ、スリング、
着替え、昼食、
- ⑥ その他 日帰り装備(水の中に入って泳ぎます)
- ⑦ 申込み 竹本正幸 090-6739-9251

● 8月11日(祝) 山の日を記念 「故郷の山に登ろう」家族登山

- 1 主 催 日本山岳会北九州支部
- 2 期 日 :8月11日(日・祝)
- 3 目的地:風師山(風頭364.3m)～矢筈山(266m)
- 4 集 合:午前8時45分 JR門司港駅前ロータリー
- 5 行 程:JR門司港駅(9時発)～風頭(11時着-11時30分
発)～矢筈山(12時30分着-昼食-14時発)～
JR小森江駅～(15時着、解散)
歩行距離約8.5km 累積標高差538m
- 6 矢筈山には旧陸軍の堡壘跡が残っており一部はキャン
プ場として使用され、上下水道・水洗トイレも完備され
ております。

尚、矢筈山では子供を対象にスイカ割り等を行います。

- 7 参加費 200円(イベント保険料、スイカ、アイス等)
- 8 参加資格 小学生以上 但し、中学生以下は保護者同伴
- 9 申込み
 - ①住所・氏名・年令・性別・電話番号を御記入のうえ
FAX又はハガキで
 - ②8月5日(月)までに下記へ 上記の個人情報は当行事
以外には使用いたしません。
 - ③宛先 〒800-0028
北九州市門司区下十二町4-1-505
丹下 洽 Tel・Fax 093-391-8193
携帯 090-3732-8843

●ポレポレ山行・お知らせ

ポレポレ会で...

野の花を愛で、史跡をめぐり、
その土地の美味しい料理を食べ、
のんびり山歩きを楽しみませんか！！

- ・8月29日(木) 尾ノ岳・菊池溪谷
(納涼バスハイク)
- ・9月12日(木) 特牛岳【田川郡赤村】
- ・10月31日(木) 日ノ岳イノシシの焼肉
- ・11月 7日(木) 西叡山・高山寺 (六郷満山)

集合時間や行程についての問い合わせ先
担当 丹下 洽 090-3732-8843

●「山の日」記念・木版画展開催

「山の日」を記念して木版画展を開催します。

- 1 会 期 8月5日(月)～11日(日)
- 2 会 場 ギャラリー・カフェ「柳 庵」
門司区大里戸ノ上1-2-23(大里バス停近)
- 3 主 催 日本山岳会北九州支部 版画同好会
- 4 問合せ先 伊藤久次郎 090-8837-2696

●英彦山山頂トイレ清掃

北九州支部の皆様・ご協力ください！！
当支部の掃除当番は下記の通りです。

- ・8月28日(水)
- ・10月 9日(水)
- ・11月20日(水)

参加できる方は、3週間前に申し込みください。
自然保護担当 奥田スマ子 080-8589-0903

9月の山行

●三倉岳 (中止)

9月14日(土)～15日(日)の三倉岳は、広島支部との調整がつかず、取りあえず中止とします。今後、広島支部との調整がつき次第、ロッククライミングを計画する予定です。

●由布岳 (1583.3m)

- ① リーダー 三浦利夫
- ② 期 日 9月29日(日)
- ③ 集 合 正面登山口駐車場
- ④ 時 間 午前8時30分集合
- ⑤ 行 程 正面登山口～合野越～マタエ～西峰～東峰～マタエ～正面登山道登山口
コースタイム:6時間程度
※ 西峰～東峰へのお鉢巡りは、天候等の状況により変更する場合があります。
- ⑥ 携行品 一般登山装備
- ⑦ 申込み 三浦利夫 090-2850-6020
- ⑧ 締切り 9月8日(日)
※ 当初予定の阿蘇は、火山活動の影響で一部立入が規制されているため、由布岳に変更しました。

●傾山テント泊 (6/15雨天中止の復活)

- ① リーダー 縄手 修
- ② 場 所 傾 山 (1602[㍻])
- ③ 日 程 9月14日(土)～15日(日)
- ④ 集合場所 原尻の滝駐車場 9時00分集合
- ⑤ 行 程 14日 九折登山口～三ツ尾～坊主尾根～傾山～九折越テント設営
15日 九折越～九折登山口
- ⑥ 申込み 縄手 修 080-8733-2738

●特別山行計画 北アルプス・槍ヶ岳 (3180m)

初心者企画

- ① リーダー 縄手 修
- ② 日 程 9月20日(金)～25日(水)
5泊6日(25日は予備日)
- ③ 場 所 北アルプス槍ヶ岳
- ④ 募集人 8人 (初心者を優先する)
- ⑤ 経 費 概算 8万円
- ⑥ 交通手段 レンタカーを予定
(参加人数に依り変更有り)
- ⑦ 宿泊先 山研(日本山岳会、上高地山岳研究所)

に

宿泊しませんか!!

- ⑧ 行 程 上高地⇒横尾⇒槍沢⇒槍ヶ岳山荘⇒
槍ヶ岳山頂⇒横尾⇒上高地
- ⑨ 申込み 縄手 修 080-8733-2738
osamu.nr@outlook.jp
: osamu.sangaku@gmail.com
- ⑩ 締切り 8月15日(木)
- ⑪ その他 締切り後、訓練山行を実施します。

●第2回「山岳専科」のお知らせ

- ① リーダー 三浦利夫
- ② テーマ 山岳気象その他
- ③ 期 日 9月1日(日)
- ④ 集 合 皿倉山ケーブルカー山麓駅 駐車場
- ⑤ 時 間 午前8時30分集合
(ビジターセンターまで徒歩で移動予定)
- ⑥ 携行品 通常登山装備一式・筆記具・昼食
- ⑦ 申込み 三浦利夫 090-2850-6020
- ⑧ 締切り 8月11日(日)

10月の山行

●平戸の山

＜志々岐山・佐志岳・上段ノ野＞
「花散策と美味しい魚料理」

秋花の散策登山です。この時期はダルマガク、ダンギク、チョウセンノギク、イトラッキョウ、オトメラッキョウ、ムラサキセンブリ、シマシャジン、オケラ等の花を見る事が出来ます。

夜は民宿にて美味しい魚で懇親会。

- ① リーダー 田中 幸弘
- ② 期日 10月26日(土)～27日(日)
- ③ 集合 午前9時00分 中瀬草原集合
- ④ 行程：26日(土) 中瀬草原(ダルマガク鑑賞
後車で移動)～志々岐山登山
～民宿泊
27日(日) 佐志岳・上段ノ野登山～下山
後に嵐風で入浴後解散
- ⑤ 装備 通常の登山装備
- ⑥ 費用 宿泊費 7,000円(飲み物別)
- ⑦ 申込み 塚本久嘉 090-7475-6084
※ホームページ(jac-kitakyushu.jp)
から申し込んで下さい、
ネットが繋がらない方は電話でも可。
- ⑧ 締切り 8月25日(日)
- ⑨ 定員 10人
 - ・ 中瀬草原まで北九州から九州自動車道～福岡都市高速 約3時間
 - ・ 中瀬草原のキャンプ場は無料で利用出来ます。

来

●第3回「榎有恒碑前祭」開催(ご案内)

- 1 主催 公益社団法人
日本山岳会北九州支部
- 2 期日 10月20日(日)
- 3 場所 北九州市門司区・風師山(風頭)
「榎有恒記念碑」前
- 4 集合 9合目駐車場 午前9時30分
駐車場から徒歩で風頭へ、約15分
- 5 スケジュール
 - (1) 記念式典：午前10時～11時
 - (2) 式次第：支部長挨拶、来賓挨拶、献花、献歌、
記念撮影
 - (3) 記念昼食会
会場：門司倶楽部 2F宴会場
時間：12:00～14:00PM
会費：3,500円
- 6 その他
雨天の場合は風師山での行事は中止し、記念式典と
昼食会を門司倶楽部で行う。その場合のタイム・
スケ
ジュールは次の集合時刻以外は変更なく、上記の通
り
で実施する。
 - ・ 集合時刻 午前11時30分
 - ・ 集合場所 門司倶楽部2Fロビー
 ※雨天中止の場合は、前日夕刻のNHKの天気予報
に
基づき決定し、参加者に電話・メールなどで
連絡す
る。

●第2回「指導員研修会」のお知らせ

- ① 日時 10月6日(日) 9時00分～
- ② 場所と内容は決まり次第、
受講される指導員の皆様にご連絡します。
- ③ 申込み 清家幸三 090-8664-4411
- ④ 締切り 8月1日(木)

●家裁登山サポートのお知らせ

家裁登山サポート募集
10月末頃実施の予定です。
担当 小林 英世

森林保全巡視員のお知らせ

●森林保全巡視員の一斉巡視(前期)について

森林保全巡視員による一斉巡視(前期)を行いますので、巡視員は参加をお願いいたします。

※ 巡視員以外の方も参加できます。

～クスの木が自生した道を歩きながら、
巡視活動を行きましょう。～

- 1 期 日 9月7日(土)
- 2 集 合 JR福工大前駅 午前9時20分 又は
立花口登山口午前9時40分
・モデル列車(快速)
小倉(8:14)===福工大前(9:14)
・車での参加者は、
立花口登山口駐車場に集合下さい。
- 3 行 程 立花山登山口～大クス～立花山～三日月山
立花山登山口 所用時間 約3時間
- 4 申込み 三宅明子 携帯 090-1510-1311、
メールakkorose.27@gmail.com
※ ショートメール不可
- 5 締め切り 8月17日(土)
- 6 その他 巡視員は、腕章及び委託証明書を持参してください。

●森林保全巡視員の「委嘱の更新・募集」について

令和元年10月末を持って、森林保全巡視員の委嘱期間が満了します。現在活動中の巡視員の方は、「委嘱証明書」および「腕章」を、10月末までに、福岡森林管理局に返却(委嘱件数確認のため)しますので、赤瀬宛にお届けください。

併せて、新たに巡視員を希望される支部の会員(支部友も含む)は、下記の内容をご確認のうえ、赤瀬までご連絡ください。

- 1 委嘱期間
令和元年11月1日～令和3年10月末日まで
- 2 委嘱の条件
・北九州支部の通常会員および支部友
・巡視員は、無報酬です。
・年2回、九州山域での活動記録の提出義務があります。
・再委嘱に当たっては森林保全巡視報告書の提出状況等の参加状況を勘案します。
・委嘱された場合は、委嘱証明書を持参し、腕章をつけて入山してください。
- 3 提出書類
・現在、巡視員の方は、委嘱状および腕章を10月末までに、赤瀬宛郵送にてご返却ください。
・森林保全巡視員希望者に、委嘱に必要な書類を送ります。
- 4 連絡先
〒811-3103 福岡県古賀市中央5-9-1
赤瀬 榮吉 090-7475-9748
- 5 その他
・詳細については、赤瀬榮吉にお問い合わせください。
・12月の「忘年の集い」にて、「委嘱式」を行いますので、ご出席してください。

●小倉サロンのおさそい

開催日 会員の情報交換の場として、
偶数月・第1木曜日に開催しています。

◆8月及び10月

- ① 日 時 ・8月1日(木)17時～
・10月3日(木)17時～
- ② 場 所 ルーム
- ③ 内 容 ビデオ鑑賞
8/1 「一般登山のセルフレキュー」
(山と渓谷社)
10/3 「黒部の太陽」「氷壁」
ビデオ鑑賞後、感想や個人山行等、
情報交換情報交換 20時閉会
- ④ 会 費 1,000円程度
- ⑤申込み 清家幸三 090-8664-4411

●サロン博多のおさそい

新鮮な工場直送の生ビールを満喫しませんか!

- ① 日 時 8月8日(木)
- ② 場 所 アサヒビール園博多店
Tel 092-482-7887
- ③ 会 費 4,300円(65歳以上 4,050円)
*4種肉のしゃぶしゃぶ、食べ飲み放題予定
- ④ 集 合 JR竹下駅前 18時15分
- ⑤ 申込み 赤瀬榮吉 090-7475-9748
- ⑥ 締め切り 8月1日(木)

●会務報告

令和元年5月定例役員会

事務局

- 1 日 時 5月14日(火)18時～
 2 場 所 当支部ルーム(毎日西部会館1F)
 3 議 題
 (1) 会員 通常会員:67人 準会員:4人
 支部友:41人 会友:4人
 合計:116人 (平成31年4月22日現在)
 (2) 会費納入状況(未納者)
 通常会員13/67 支部友14/41 準会員0/4
 会友1/4
 (3) 行事報告
 ・3月10日(日)第2回山岳専科(気象) (7人)
 ・3月23日(日)～24日(日)
 やくし山～マロン岩峰 (16人)
 ・3月28日(木)南阿蘇バスハイク
 ポレポレ山行 (20人)
 ・4月7日(日) 宗像、大島(九州オルレ) (18人)
 ・4月14日(日)第1回指導員研修 (10人)
 ・4月21日(日)第20回 通常総会 (33人)
 ・4月28日(日)～5月3日(金)
 上高地～澗沢 (19人)
 ・4月25日(木)花尾山(山口県美弥市)
 ポレポレ山行 (11人)
 (4) 山行・行事計画
 ・5月12日(日) 英彦山清掃登山
 下山時にバイオトイレオガズ(無臭)を
 もって降りてもらえないか(筑豊山の会)
 オガズは、500gから1kg程度の重さで、無臭、
 専用のパックに詰めています。
 5月12日(日)英彦山清掃登山の下山で協力
 ・5月19日(日) 岩登り平尾台(初級)
 ・5月25日(土)～26日(日) 英彦山山開き

- ・5月25日(土)～26日(日) 全国支部懇談会
 ・6月8日(土)～9日(日) 由布岳地形研究山行(個人山行)
 ・6月9日(日) 第1回山岳専科
 ・6月15日(土)～16日(日)傾山テント泊 雨天中止
 ・6月22日(土)～23日(日) 夏山フェスタin福岡
 ・6月30日(日) 筋ヶ岳～弟見山縦走 雨天中止
 ・7月7日(日) 内住峡沢登り 8月日に 変更
 ・8月21日(水)～26日(月) 南アルプス
 (荒川三山・赤石岳・聖岳) (特別山行)
 (5) ポレポレ会
 ・5月16日(木) 平尾台南の大地【小倉南区】
 ・6月6日(木)～7日(金) 扇ヶ鼻(久住山)【大分県九重町】
 ・7月11日(日) 城山(筑前東郷)【福岡県宗像市】
 5 審議事項
 (1) 2019年度役員の見定及び、担当業務の副担当者の
 決定
 (2) 20周年記念行事について
 (3) 支部ホームページの進捗状況

●会員の異動・お知らせ

退会者 ・北九 491 大塚浩美 5/2
 ・11979 大城戸昌敏 6/末

編集後記

支部報「北九だより」89号7月の発行を初めて担当することになりました。発行するにあたり、編集に手間取り「申込期限(締め切り)や開催期日のお知らせ」など、遅くお詫言ひ申し上げます。今後は、タイムリーに発行できるよう、力を尽くし、取り組んでまいります。よろしくお願ひいたします。

広報委員長 花田拓二

居酒屋
「コール天」

- 場所：小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
 TEL:093-522-0565
 JR 鹿児島本線 小倉駅南口から
 ※中央銀天街方面に向かい徒歩5分
 (紫川方面バス利用可) (行)
 ※北九州支部は小倉サロンでお世話になっています

